Press Release

報道用資料
2007年9月

日本画変革の先導者

玉村方久斗展

TAMAMURA Hokuto: Revolutionary of the Japanese Style Painting

会　　期：2007年11月3日（土）～12月16日（日）
休 館 日：月曜日
開館時間：午前9時30分～午後5時［入館は午後4時30分まで］
観 覧 料：一般900（800）円　20歳未満・学生750（650）円　65歳以上450円
＊（　）内は20名以上の団体料金です。
＊高校生以下の方、障害者の方はすべて無料です。
会　　場：神奈川県立近代美術館 鎌倉
〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53　tel.0467-22-5000
主催：神奈川県立近代美術館、京都国立近代美術館、日本経済新聞社

大正・昭和に活躍した前衛日本画家玉村方久斗（善之助／1893-1951）は、最初日本美術院に出品し頭角を現しました。しかし、より新しい日本画の表現を求めて日本美術院を脱退し、さらに「第一作家同盟（D・S・D）」、「三科造形美術協会」、「単位三科」などの前衛運動に身を投じていきます。当時の前衛運動はほとんど洋画家たちによって推進されたと言っていいなかにあって、玉村方久斗は一人、前衛的な日本画の世界を切り拓いていきました。この時期、玉村方久斗（善之助）は、立体造形の前衛的な作品（現存せず）を発表し、さらに前衛的な雑誌『エポック』や『ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム』の創刊にかかわりました。また、版画の制作も精力的に行い、その多彩な創作活動振りを発揮しています。一方では、今回80数年ぶりの本格的な公開となる九巻の画巻による大作《雨月物語》（1923-24）や《保元物語》などのシリーズで独自のグロテスクで諧謔的な画風を展開して、斬新な日本画を描きつづけました。そして新しい日本画を広めようとする玉村方久斗は、自ら「方久斗（ホクト）社」を結成して、同志とともに発表の場をつくりだし、キャッチボールをする親子を描いた《休日》（1931）のように生活断片を描いた作品や生活感情を重んじた日本画をも制作しました。

本展では、波乱万丈な芸術的生涯を断片的にしか知られてこなかった玉村方久斗（善之助）の芸術の全貌を、約150点の作品と雑誌などの資料を通観することによって明らかにしようというものです。

■講演会　日時：　11月8日（木）　午後1時～2時（開場：午後12時30分）
講師：　玉村豊男（エッセイスト・画家）
演題：「父・玉村方久斗のこと」
会場：　神奈川県立近代美術館 葉山　講堂　（葉山町一色2208-1 tel.046-875-2800）
定員70名、要予約　※申込方法等、詳細はホームページをご覧ください。

■ギャラリー・トーク　日時：11月18日（日）、12月2日（日）、各日とも午後2時～　（予約不要）

美術館ホームページに掲載される下記のプレス情報をご覧下さい。
http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/press/2007r_tamamurahokuto.pdf

お問い合わせ先：
神奈川県立近代美術館 鎌倉
〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53　tel.0467-22-5000 / fax.0467-23-2464
http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/　　広報担当：平井　展覧会担当：橋

The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
神奈川県立近代美術館

《軍鶏図》京都国立近代美術館　昭和18年頃

《猫》京都市美術館　昭和3年頃

《春雷山雨将来之図》京都国立近代美術館　昭和18年

《野火》京都国立近代美術館　昭和18年

《休日》京都国立近代美術館　昭和6年

《書斎》　秋田県立近代美術館　　昭和6年